

# 紋高養通信

## 「寄宿舎の生活」

今月は、本校寄宿舎「名誠寮」の生活の様子について紹介します。寄宿舎生64名は、朝登校し、夕方には戻って寄宿舎で暮らしています。

寄宿舎は生活の場ですが、のんびりと過ごすのではなく、いろいろな生活技術を身につけられるように学びながら生活しています。掃除や洗濯、配せんなどの身の回りのことは、できるだけ一人で取り組み、自分のことは自分で行えるように指導しています。ときには買い物や調理なども行い、卒業後の地域生活につながるように経験を積み重ねながら生活しています。入学時にはぎこちなかった洗濯物を干す手つきやほうきの持ち方も、3年間の積み重ねによって、卒業する頃には手際よくできるようになっていきます。また、寄宿舎ではみんな仲良く、楽しく生活を送っていますが、楽しいだけではなく、「親しき仲にも礼儀あり」を基本に集団生活のマナーについても学んでいます。



新入生を迎えたレクリエーションの一場面です。緊張した様子で自己紹介した1年生も、優しい先輩に囲まれ、すっかりうちとけてゲームを楽しみました。

バスの利用や買い物の時などには、地域の皆さんに大変温かく接していただき、生徒も職員も感謝しています。今後ともよろしくお願いいたします。

## 紋別養護学校通信

### 「校内研修の取り組みについて」

紋別養護学校には、日々の教育実践における教職員の課題解決と、教職員の資質及び専門性の向上を目指して、学校組織全体で取り組む「校内研修」というものがあります。複数年に渡り研究のテーマ（研究主題）を計画的に設定し、開校以来昨年度まで、9つの研究を行ってきました。今年度新たに研究主題を設定し、第10次研究として2か年の研究をスタートさせることとなりました。

第10次研究の研究主題を、「集団の中で、個が生きる指導を目指して～児童生徒一人一人が人とのかかわりの中で分かって動ける力を育むために～」と設定しました。

本校の児童生徒は友達や教師とのかかわり合いの中で、「人」や「集団」を意識しながら社会性やコミュ



ニケーション能力を培っています。また、子供の障がいの状態や特性、学習の状況に応じて「今何をするのか」「何を目標にしてその学習をするのか」ということが分かるように教職員が伝えたり、環境を設定したりすることで児童生徒たちは集団の中でさらにいきいきと取り組み、輝くのではないのでしょうか。

児童生徒たちがそのような姿になるために、本校の授業や生活指導がどうあるべきか、そしてそのために教職員集団がチームとしてどう取り組んでいくのかを追求していこうとしています。

このような主題のもと、小学部・中学部・高等部の教職員と寄宿舎指導員が一体となって研究に取り組んでいきます。研究の成果については、近隣の学校や地域の方々にも発信していきたいと考えています。